

絶やさず守り続ける

この一瞬に誇りをかけるため

守り抜く伝統

今年も、血が騒ぎ心躍る季節の到来

各地区でさまざまなお盆の伝統芸能が行われる

平戸の夏、それは脈々と伝統を守り抜く人

たちの戦いの季節でもある



受け継いできた伝統

「伝統芸能」それは西洋文化が入ってくる明治時代以前の芸術と技能を、現代芸術と区別した呼び名です。「日本独自の文化」という意味ですが、江戸時代以前文化の先進国であった中国から流入したものを、日本独自に作り変えたものが多くみられます。

現在残っている伝統芸能は、明治期の西洋化以降も既存の形を保ちながら存続し、現代芸術とは関連性が少ない形で併存しています。しかし、時代の流れで存続できず、途絶えたものも数多くあります。

現存する伝統芸能は、伝統をそのまま守り、絶やさず後世に残してきた先人たちの熱い思いの結晶でもあるのです。

先人たちの思いを未来に

平戸にも市内の各地区に、脈々と受け継がれてきた伝統芸能が数多くあります。平戸地区のほぼ全域にある「平戸のジャンガラ」、獅子地区の「獅子

子の須古踊」、度島地区の「度島の盆ごうれい」、生月地区の「館浦の須古踊行事」、大島地区の「大島の須古踊」「大島のジャンガラ」「大島の流儀」、どれも長年にわたり地域の人たちが守り抜いてきた特色ある伝統芸能です。

しかし、時代の流れとともに少子高齢化や都市部への人口流出などで、地域に残る若者が少なくなり、後継者を確保することが年々難しくなってきました。それでも、先人たちが受け継いできた貴重な地域の伝統を未来に残していくため、懸命に努力しながら守り続けている人たちがいます。その人たちは口をそろえて言います「先人たちが守ってきた伝統は必ず次世代につないでいく」と。

「伝統をつなぐ」ことは容易ではありません。しかし、伝統を受け継ぐ熱い意志、次世代へつなぐ強い使命感を持った人たちがいる限り、未来永劫継承することができるのです。すべては先人たちの思いを未来の人たちに届けるために。

— 3人の代表者が話す「伝承の継承」とは —



度島町民俗芸能保存会会長
森 芳樹 さん

度島の「盆ごうれい」は、島内の3地区でそれぞれの踊りがあります。近年は、少子化の影響もあり、参加者の減少などさまざまな問題が山積していますが、他の地区へ手伝いをお願いしたり「盆ごうれい」の象徴でもある幟の数も、各地区2本だったのを1本に減らすなどして、工夫を凝らし継続しています。

今後、この伝統を次世代へつなげていこう頑張っていきます。



獅子須古保存会会長
永田 肇 さん

昔は、総勢約150人でお宮やお寺などを回りながらやっていたが、少子化の流れもあり、現在は約30人で獅子の夏祭りの会場のみで踊っています。また「中踊り」という踊りは、人数がそろわないため休止状態です。

これからも踊り手は減っていく可能性もありますが、先人たちの思いを後世に残していくためにも、規模は小さくなるかもしれませんが続けて行きたいと思っています。



館浦須古踊り保存会会長
戸田 幾嘉 さん

8月16日の本番に向けて練習が始まると、その音色を聞くとお盆が近づいたと言われるほど地域の風物詩になっています。

少子化で地域の子どもの数が少なく、踊り組を集めるのに苦労しています。また保存会の運営、道具や衣装の更新、技能伝承など気が休まることはありませんが、館浦地区唯一の民俗伝統芸能として、皆さんの心のより所となるよう継承していきたいと思っています。

【昨年度の度島の盆ごうれい】

全長14.5mの白黒2反の布を合わせた幟を1人で持ち上げる若者(寺の坂の幟起こし)

その様子は、見物人を魅了し、持ち上げた瞬間大きな拍手が起こり、度島の盆ごうれいのメインイベントでもある。

8月に

各地で催される

伝統芸能

平戸のジャンガラ

国指定重要無形民俗文化財

ジャンガラは、平戸を代表するお盆の伝統芸能で、笛や太鼓、鐘の音が響き渡る中、華やかに飾った花笠を頭にかぶった踊り手とはやし手が、腰に小太鼓を結びつけて「ホーナーゴー、ホミデー」と歌います。これは「穂長う、穂実出」ということで、豊作を願う言葉と言われています。

起源は定かではありませんが、志々伎神社の神田領民が豊年念仏の踊りとして奉納したことが始まりとされています。



度島の盆ごうれい

県指定無形民俗文化財

江戸時代、松浦家29代鎮信（天祥）のころに、島民の平和と豊年、豊漁を祈願して始まったといわれ、大名行列の形態で行われます。行列は本村地区を練り歩き、太鼓と笛の囃子が響きます。踊りは幟、花杖、奴踊り、須古踊りなどがあり、特に全長約14.5mの幟を持ち上げる様子は圧巻です。



と き 8月15日(月)
午前7時～
ところ 度島地区一帯



と き 8月11日(木)～18日(木)
ところ 11日(木) 野子地区(阿弥陀寺)
14日(日) 野子・大志々伎地区
15日(月) 宝亀・紐差・根獅子・中津良・津吉地区
16日(火) 中野地区
18日(木) 平戸地区



獅子の須古踊

市指定無形民俗文化財

獅子の須古踊は、江戸時代から千ばつ時の雨乞い行事として行われていた。

各地の須古踊りに比べて、芸能や行列の組み合わせに特色があり、高い山、杖使い、笛、太鼓、鐘、杵ふりなどの踊りがあります。特に杵ふりは、木の杵を振りながら即興で祝い歌を歌うもので、他の須古踊りには見られない獅子の須古踊り独自のものです。



と き 8月13日(土)
午後6時30分～
ところ 獅子小学校跡地

花火大会も各地で開催

平戸港夏まつり

8月6日(土) 午後4時30分～午後9時15分

会場 平戸港交流広場・平戸港内

大島村夏祭り花火大会

8月12日(金) 午後3時～午後9時

会場 大根坂漁港埋立地

館浦港花火大会

8月15日(月) 午後5時～

会場 生月町船員福祉会館前広場

生月花火大会

8月16日(火) 午後8時～

会場 生月漁港

たびら夏祭り花火大会

8月17日(水) 午後3時～

会場 田平港埋立地一帯



「大島の盆踊り」
国選無形民俗文化財
「大島のジャンガラ」
県指定無形民俗文化財
「大島の流儀」
市指定無形民俗文化財
須古踊は、佐賀県白石町の須古妻木城落城伝説が結びつくもので、帷子に角帯、草履に菅笠、手に扇子や笛をもつて円形になり笛、太鼓、鉦に合せて歌いながら動作を繰り返します。ジャンガラは、平戸と異なり鉦でリズムをとり、物静かで軽妙な動作を繰り返すのが特徴です。流儀は、藩政時代の逮捕術の棒術が取り入れられたもので、激しい掛け声と技は勇壮です。